

ふんとうき

富士山奮登記

2021年8月30日(月)~31日(火)





スバルライン五合目より



泉ヶ滝分岐



六合目～七合目



山小屋の様子



ご来光は雲の中



頂上直前の鳥居



頂上でマレーシアから来た若者と



山中湖と自衛隊北富士演習場

「のらえもん」で富士登山をしたのは7年前の2014年夏、長男が小学6年生の時だ。その後、中学校に進学すると部活動や友達との予定が優先され「のらえもん」の活動参加は終わりになった。それだけでなく、親子で外出する機会が減っていった。これが親離れなのか？幼児期からの子育てひと段落か？と考えつつ、息子本人は思春期に突入し新たな悩みが出現、親子で奮闘しながら今春、地方大学へ進学しアパート暮らしを始めた。この中学校進学前という区切りの時に日本一の山、富士山に登ったことは良い思い出になっている。そして、次男がこの時期に近づき、去年小学6年生で富士登山を考えていたが、コロナ禍で登山道は閉鎖。今年中学1年生、コロナ禍は収まってないが登山道は開いている。山小屋も定員を減らし「事前予約者限定で営業する」とのことだ。感染対策、ワクチン2回の接種を済ませれば出来ると考えた。わたくしは、早々に2回の接種を済ませていたが、13才の息子は接種券すら届いていない。7月12日から発送を開始するとの情報があり、到着を待ち予約をしたが、2回目の接種日は8月26日になった。副反応の様子をみて28日に山小屋を予約すれば29、30日若しくは30、31日で夏休み中に行けると考えた。下山翌日の始業式はキツイと思い29、30日で行きたい。何とかワクチン接種の副反応は出ないでくれと願っていたが、接種翌日に40度超の高熱が出てしまった。今年もダメか？と気を揉んでいるところに夏休みは9月12日まで延長の連絡があり、登山道閉鎖日は9月10日だから丁度良かった。熱も一晩で収まり30、31日で決定。山小屋も高速バスも土曜日以外は空いており前日の予約でも難なくとる事ができた。

富士山の山小屋の食事は、夜はレトルトカレー、朝は菓子パン2個が定番だ。それに2~3千円の料金を払うくらいならカップ麺を持参したほうが良いと考え、素泊まりの予約で9250円/人。7年前の富士宮口では7000円位で2食付だった。約1.5倍に跳ね上がっている。食事の用意は一人にカップ麺とカップ焼きそば一つずつ、おにぎり五つ、水500mlのペットボトル4~5本、始めはTシャツ姿で良いかもしれないが山頂の気温は8℃との事なので防寒着も準備、ヘッドライトに雨具、替え用のシャツ等で荷物はいっぱいになった。そんな準備をしている出発前日には長男が帰省してきた、出発の見送りは無かったものの何らの「繋がり」を感じた。富士山では、木製の杖に山小屋の焼き印を押してもらえるのだが、7年前の富士宮口で押してもらった杖の裏側に今回の吉田口の印を押してもらおう。物入れの奥から杖を探し出し、準備は整った。

一日目 8月30日(月)4:30起床、4:55自宅を出発、最寄り駅まで徒歩で行く。朝早いのに思ったより乗客がいる。座れない。6:12新宿駅着、6:20バスターミナル着、コンビニのサンドウィッチを食べる。6:45高速バス発、片道2650円/人。車中ではよく寝る事が出来た。バスは河口湖ICで高速道を下りる。8:25富士急ハイランド前8:30富士急河口湖駅、この先の富士スバルラインで山を五合目まで上がって行く。河口湖駅とスバルライン五合目の標高差は約1400m。耳が痛くなる。バスの中から三合目、四合目という表示が見えてくる。9:20富士山五合目着。高度順応のため、周辺を一時間ほど散策する予定だった。息子が「お腹痛い。」と言い出した。次はトイレに行ったあと「アイスクリームを食べたい。」と言い出した。緊張でもしているのか？その後、一時間座って休んでいた。わたくしは土産物店の中に入ったり、小御嶽神社に参拝などして過ごしていた。登山ガイドの説明している声が届く「荷物は極力減らして下さい。水2L必要なって言われていますが、500mLだけで良いです。行動食もいりません。少し値段が高いですがこの登山道には山小屋が沢山あります。水も食料もそこで調達して下さい。体力温存が第一です。コインロッカーがありますから置いて行って下さい。」こいつは山小屋の回し者か？と思いながら重たい荷物を担いで行く。10:30スバルライン吉田口2305m、息子のお腹の具合はよくなり入口で協力金1000円/人払う。道は広く緩やかな下り坂。11:00泉ヶ滝、ここで佐藤小屋、馬返しへと向

かう道と登山道との分岐。この小さな滝で「身を清めて入山する」との事だが、水流はなかった。ここから六合目までは樹林帯の中を歩く。霧が出ては消えてゆく。息子はゆっくりペースに飽きたのか六合目で待ち合わせという事で先に行ってしまった。11:30 六合目安全指導センター 2390m、地図を配っている。「下山道唯一の山小屋はもう閉鎖しているので飲料水の確保は必ず山頂で。」との事。協力金の徴収員も待機している。協力金を払うと小さな木札を貰えるのだが、それをチェックしているようだ。息子は10分程先に六合目に着いていた。待ちくたびれて機嫌の悪い顔をしていたせいも、指導員に「具合が悪いのか？」と声をかけられたようだ。おぼちゃんのとりにチョコんと座って待っている。指導員のおぼちゃんに「お父さん、まだ六合目だよ。頑張っ。」と言われ息子と合流。ここから登山道と下山道が別れ、それぞれ一方通行、登山道は広く緩やかな道が続く。この辺りから樹木は無くなり日差しが照りつける。12:20 七合目花小屋 2650m、昼時で山小屋の周囲で食事休憩をとっているグループが多数いる。混雑を避け次の山小屋で昼休憩をとることにし、岩場を登って行く。12:40 日の出館 2720m、食事休憩 20 分間。板チョコ 250 円也。カップ焼きそばの湯切り湯でカップ麺を作る。この方法なら一食分のお湯で二食作る事が出来る。水筒のお湯はまだ熱い。ここからは山小屋が標高差 20m~100m 毎に続く。医師が 24 時間で常駐しているはずの救護所は 8 月 22 日迄の開所で閉鎖されている。わたくしは山小屋前のベンチを利用しながら 30 分毎に小休止しながら進んで行くが、息子は先へ行ってしまった。13:50 鳥居荘 2900m、待ち合わせ場所のはずだがいない。LINE のメッセージが入る。「待ちくたびたからもう一つ先の山小屋まで行く。」14:20 東洋館 3000m、息子と合流。この山小屋は最近、改装されたようで大変きれいな所だ。あとで調べると相部屋は無しでカプセルホテルのような個室と 2~4 名のプライベートルームのみ、個室 2 食付で 12100 円/人だった。食事もレトルトカレーでなく味噌けんちん汁定食といなり寿司弁当とおいしそうなものだ。出発早々、息子は「八合目で待っている。」と言って先に行ってしまった。15:00 八合目太子館 3100m、息子と合流。コーンポタージュスープをねだられる。400 円也。太子館に併設されている救護所も閉まっていたが、この辺りから高山病になる人が多くいるようだ。予約している本八合目の山小屋までは標高差で 300m、標準タイムで 90 分。あとひと踏ん張りだ。息子が先に出発。15:50 白雲荘 3200m、息子と合流。「待ちくたびれた、もっと早く登って来てくれ。」「もう本八合目の泊まる山小屋まで行っちゃうから。」と全開だ。登る前は「お腹痛い。」なんて言ってたくせに。16:20 元祖室 3250m、息子から LINE のメッセージが入る。「本八合目の泊まる山小屋に着いた、受付して待っている。」眼下には山中湖の全貌が現れる。きれいだ。17:30 本八合目富士山ホテル 3400m、このホテルという名の山小屋を予約したのだが、スタッフの対応がとても良くない。到着早々、矢継早に説明を受け、明日の予定を伝えた。まずは、トイレの利用料は宿泊客でも掛かるとの事。7 年前の富士宮口のルートではこのようなことはなかった。復路でも無料だった。当初の予定では、明日この山小屋に荷物を預け、カラ身で山頂を目指した後、お鉢巡り、9~10 時位に山小屋に戻り下山する予定でいた。しかし、「チェックアウトは 7 時で荷物もその時間までしか預かれない。」との一点張り、七合目の山小屋はどこでも 9 時のチェックアウトだった。追加料金での対応も不可で融通が効かない。HP の説明文では対応するとのことでこの山小屋を選んだのに目論見が外れた。吉田口のルートは登山道と下山道がこの本八合目で合流する。「荷物預かり」がこの本八合目で泊まる最大の利点で、その為に無理して登って来たののがっかりだ。お鉢巡りは諦め、ご来光を山小屋で見て 5 時出発と伝える。食堂では団体客が交代でカレーライスを食べている。米軍横田基地からのグループだ。慌ただしいので外のベンチで 2 回目のカップ麺を食べる。お湯はぬるいが食べられる。その後、息子は 6 時過ぎには寝床で寝てしまった。寝床は一人一畳程、感染対策でグループ毎に一~二畳の間隔があり、しかも隣のグループは不在で一晩中空いていた。親子で六畳程のスペースが自由に使えたのは良かった。例年ではこのような事はないだろう。わたくしも寝床に入

るが眠れない。就寝スペースは食堂の真上で声が直に伝わってくる。ポケットボトルのウイスキーを口に含ませ寝ようとしたがだめだ。カレーの匂いがしなくなっても騒がしいのだ。トイレに立つと、スタッフ達が酒盛りをしているのではないか。8時の消灯で静かになり就寝。夜中12時頃からまた騒がしくなってくる。ご来光を山頂で迎えようとする客の準備だろうか、その客の出発時刻の2時半頃まで騒がしかった。2時頃からは部屋の電灯もつく、ゆっくり眠れない。

二日目 8月31日(火) 4:30起床。この時間に出発するのは、我々親子と一つのグループで4人だけだ。就寝スペースはガランとしている。味噌汁400円を注文し、手持ちのおにぎりを食べる。ご来光は雲の中で朝焼けだけはよく見えた。外気温は10℃で寒い。5:30山小屋を出発3400m、隣接する二つの山小屋の間を抜けると急な岩場を現れる。5:45御来光館3450m、ココアをねだられる。500円也。息子は先に行き、最初の鳥居で待ち合わせ。6:30九合目久須志神社最初の鳥居、息子と合流。急な岩場が続く。息子は先に行き、山頂で待ち合わせ。7:45吉田口山頂3700m、息子は30分程前に着いていたようだ。久須志神社で参拝し御朱印をもらう。隣の小屋で豚汁800円と水500mL 500円を注文して手持ちのおにぎりで休憩。小屋の外ではマレーシアの国旗を広げ写真を撮っているグループがいる。「Today is National Day in our country.」と言っている独立記念日なのだろう。一緒に写真を撮った。登山者は日本人と外国人が半々位のように思えた。米軍横田基地からのグループ、カナダ、マレーシア、ネパールの人々。入国制限があるのか中国、韓国の人々は見かけなかった。これら不特定多数の人々が入山しているのだからワクチン接種を済ませてからの行動は正解だったと思う。山頂は風もあり寒いので雨具を防寒に着込んだ。8:45下山開始3700m、下山道は山小屋への資材搬出入用のブル道を下りる。動き始めると暑くなり防寒の雨具は必要無くなる。赤い軽石様の砂地を下りて行くのでスパッツを着けた。「火星の砂漠を歩いてみたいだな。」と息子に声を掛けると、「お父さん、行ったことないでしょ。」と見事な返答。10:00本八合目富士山ホテル3400m、この先の下山道には山小屋は無いので水500mL 500円を購入した。しばらく下りると最後の分岐。息子は先に行く。昼食代を持たせ、スバルライン五合目で待ち合わせ。10:40八合目3100m、山小屋の太子館へ搬出入を終えたブルドーザとすれ違う。11:10七合目公衆トイレ、落石事故防止用のシェルターが現れる。12:10六合目安全指導センター2390m、霧が出ては消えてゆく。ここで下山道の一方通行は終わり、登山道との交互通行。12:30泉ヶ滝、ここからの緩やかな長い登り坂がキツイ。13:00スバルライン五合目2305m、息子は一時間程前に着き、着替えと食事を済ませ整然としている。その後、冷たいビールと共に達成感を味わった。全日程で天候に恵まれ、登り8時間55分、下り4時間15分、標高差1400m、近頃、運動不足のわたくしによく出来たと思っている。14:00高速バス発、新宿へ。

息子の身体的な成長はこの最近著しく、身長はわたくしをもう少しで追い抜くほど。今回の行程では登りも下りもわたくしの約2倍の速さで歩き、「何人も追い抜いて行ったけど、お父さんを待ってるからプラマイゼロだよ。」と、大変嬉しいことで親離れするのは当然の成り行きだと思う。精神的にはまだ幼いところはあるが、その成長の過程がこれから突入する思春期なのだろう。今後の中学、高校では「何もない」ことはないと思う。わが子が自立するまでのあと少しの期間、もう一苦労あると思うがこの思い出を携え乗り切ろうと思う。

追記 木製の杖は山小屋の焼き印で裏表びっしり。二人の息子達との思い出の品として神棚に飾っている。翌日から天気は崩れ、気温も下がり、9月7日には平年より25日も早い初冠雪の知らせ。「今年最後の機会であった」と改めて思う。